

事業名称	ジョブタネ2021
団体名・代表者	ライフスパイス 代表 松岡京子
協働の相手方	労働政策課

目的	ジョブタネは「ジョブ＝仕事/人生の役割」を軸にした学生&若者対象キャリア教育プログラムです。「いつか自分のタイミングで芽が出るシゴトのたね」を提供することで人材育成とそれに伴う地域活性化を目指します。
内容	高校生と大学生を対象に、姫路で活躍する職業人、また地域で仕事を作ると言うキーワードに活動をされている職業人とカジュアルな対話の場を設けることで、様々な人生のジョブのタネを提供するための取り組みです。
事業経過	セミナー&交流会方式で3回実施 10月「会社で働く？起業する？」会社員×学生起業家 11月「ジョブチェンジ！」靴職人×姫路市議会議員 12月「地域で働く」プロデューサー農家×コーヒー店店主（元イルカトレーナー）
事業の効果	【世代間交流】 前回の気づきを生かし、対象を高校生と大学生に変更。また今回のテーマである「ローカル×仕事」に沿った登壇者にお話をさせていただいたことによって、職業としての気づきだけでなく地域への気づきになったと参加者から声をいただいた。 【長野県へ派生】 ジャブタネ！のプログラムがとても面白いと、長野県のゲストハウス 1166 バックパッカーズにおいても12月から開催している。姫路市での事業がこのように他府県に派生するのは価値があると感じる。
今後の展望	【課題】 継続して活動を続けて行きたいが、手法を検討する必要があると感じている。 いかに最初の1歩を踏み出してもらうか。シゴトというキーワードでは集客しにくいと感じている。

【実施団体の事業総括・感想等】

【今回のテーマ】 今回のテーマは「ローカル×仕事」

自分の住む地域で、どんな仕事があり、どんな大人が働き、どんな生き方をしているのか。シゴトの話だけでなく、そのオトナたちがどう人生に迷ってきてどんな選択肢をしたか。自分の家族だけではない所のオトナと出会うことで選択肢を広げ、自分のシゴトを考える機会にしようために企画しました。対面での「シゴト」軸を通じたキャリア教育イベントです。

【事業の成果】

① 地域の人顔が見えた

普段の生活では出会わない、また話を聞くことがない人たちとの出会い。それはシゴトという切り口でもあり、また人生との出会い、そして自分が暮らしている地域への新しい気づきでもあったと感想をもらいました。

② 対面での繋がり貴重さ

コロナの影響化でずっとオンラインで過ごしてきた学生さんにとって、対面でオトナや同世代に会えたことは、何より貴重だったようです。1回目などは特に涙目になって感想を言ってきてくれる学生さんがいました。「ずっと、ずっとオンラインで誰とも喋ってなくて、それがこんな形でオモシロイ大人にあえて、同世代の人ともあえて、来てよかった。」と。運営サイドが思っている以上に、「対面」の価値があったようです。同時に地域の人に「次会いに行きます」「店に行きます」と言っていたのがよかったです。

【大学生の力】

兵庫県立大学の学生さんが自主的に参加をしてくれスタッフとして加わったことにより告知、運営が強化された。また同時に高校生にとって「少し先輩な人たちが」いることによって交流会で高校生の心のケアができたり刺激にもなってプログラムが良いものになったと思います。

【事業が難しかった点&反省点】

告知が難しかったです。チラシ配布に関してはリビングで折り込みチラシを7,000部、大学や高校での広報、大手前通り、商店街でのビラ配り、ゼミなどでの広報、また労働政策課様より後援名義をいただいたので、姫路市の関連施設に置いていただけましたので学生の自習施設などで広報活動をしました。ただ、労力に比べて集客が芳しくなかったです。口コミでつないでいくほうがよかったです。今後の反省として（学生からの最終意見としても同じですが）シゴト軸というハードルが高いのでシゴト軸は裏テーマとしてありつつもおもて面では交流を切り口にした方が良さそうと感ずる。

【今回の気づきからの改善】

学生が「ずっと聞き続けるというより、これを生かして自分が何かをする、ということが大事。僕は自分の活動を一度やってみたいと思う」と自分の思い描くプロジェクトと言ってきた学生もいました。小さく、継続することが本当に必要だと感じました。

【他府県への派生】

取り組みをSNSで告知をしていたところ、ゲストハウス界では有名な長野県1166バックパッカーズから「ジョブタネを長野でやってみたい」と打診があった。取り組みの根幹に共感していただけたらしく、長野は長野スタイルで始まりました。とても嬉しいムーブメントが姫路からできたのが嬉しく感じています。



【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

- ・大学生がスタッフとして参画できたのは、大人の視点で考えた事業の企画を、より学生のニーズに近づける意味でも良かった。
- ・当地域は、大学の立地が多いとは言えず、高校生が進学する際に多くの学生が大都市圏へ転出する。高校生のうちに生まれ育った地にどんな仕事、企業があるかを知り、考える機会を持つことは、Uターン就職する際のきっかけにもつながる取り組みになる。